

(様式1)

令和3年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1) 自学自習 (2) 規律ある自由 (3) 体力の増進
(2) 現状と課題	「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」を目指す人間像とし、徳・智・体の調和がとれ、単なる知識習得ではなく、自ら考え自ら課題解決ができる、リーダーとして社会に貢献できる人材育成を目指している。一方、受け身の生徒も増えつつあるため、主体的に学ぶ生徒を育てる体制を引き続き整えていく必要がある。また、新学習指導要領やGIGAスクール構想、18才成人など学校教育を取り巻く新しい動きに対応するため、校内の新たな体制づくりとともに、コロナ禍における安全で効果的な学習指導の研究に鋭意取り組んでいる。
(3) 重点目標	1 授業第一主義の徹底 2 豊かな人間性と社会性の育成 3 キャリア教育の推進 4 重点校としての任務の遂行
(4) 結果の公表	本校ホームページのサイトに、保護者による「学校評価アンケート」、生徒による「授業評価アンケート」、学年・分掌に関して教員による「自己評価」の結果を掲載する。また、学校関係者評価として「学校評議員会」の議事録及び本報告書を掲載する。

学校整理番号	9
学校名	青森県立弘前高等学校
全日制の課程	—

自己評価実施日	令和4年1月20日(木)
学校関係者評価実施日	令和4年2月18日(金)

※学校関係者評価は書面開催となった学校評議員会資料について、委員より評価・御意見をいただいたもの。

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員 5名
[内訳 ・有識者同窓生 2名 ・有識者教育関係1名 ・元PTA役員 2名

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	授業第一主義の徹底	「何ができるようになるのか」を明確にする。	研究授業、互見授業及びオンライン研修の受講、重点校としての事業への参加を通して教員の授業力を高めた。また、生徒に何の力を身に付けさせるのかを明確にする。また、生徒が主体的に学ぶ姿勢を育てるため、学級担任や教科担任による個人面談や必要に応じた個別の補助教材による指導を行った。さらに、オンライン授業の研究と実践を重ね、より効果的な学びにつながる授業と、コロナ禍における生徒の学習機会の確保を図った。	B	研修の受講や授業実践の工夫など、生徒の目標達成のため先生方には十分に努力していただいている。ただし、これで完成ということはないと思われるので、引き続き課題の発見と課題解決のための施策の実践をお願いしたい。また、オンライン授業はマストツールになることから、今後しっかり取り組んでいってほしい。	多くの教員が、生徒が主体的に学び、深く考えるためにICTを活用した授業実践に取り組んでいる。今年度からGIGAスクール構想によって校内のICT環境が日々改善されていることから、さらに来年度以降は新たな取組が期待できる。ただし、教職員の経験やスキルには差異があるため、OJTを基盤にした校内研修の充実を通して「授業第一主義」の実を上げていきたい。
		学習習慣を身に付けさせ、「個別最適な学び」の土台を固める。				
		探究的な学習や体験活動により、多様な他者との「協働的な学び」を充実させる。				
		「主体的・対話的で深い学び」となる授業により、論理的思考力・応用力を育成する。				
2	豊かな人間性と社会性の育成	特別活動（ホームルーム活動、自治会活動、学校行事）並びに部活動、ボランティア活動を通して、逞しい心と体及び自主自立の精神を養う。	制限や禁止によらない指導を基盤とし、生徒自ら考え行動することによって「規律ある自由」が保たれた。また、コロナ禍の制約はあったが、弘高祭の開催と弘高ねぶたの制作、校地内でのねぶた展示を行うこともできた。この取組によって、本校の伝統継承がなされるとともに、生徒の自己有用感や他者に対する思いやりの心を育むことができた。さらに、全校をあげて換気・消毒・黙食等を徹底し、新型コロナウイルスの感染防止対策に取り組んだ。	B	本校の目指す人間像「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」とおり、生徒の能力を伸ばす指導がされていると評価します。コロナ禍で計画どおりの指導が難しい中、感染防止を取りながら、弘高祭、ねぶた制作・展示を実施できたことはとてもよかったです。様々な工夫は次の活動につながる種になるのだと思います。今後もウイズコロナの状況が想定されますが、可能な限り目標に近づくための方策の研究をお願いします。	感染症対策や実施方法の工夫により、昨年来の課題となっていた「弘高ねぶたを核とした本校の人間教育の復活」が実現できた。次年度以降も、様々な機会を捉えて生徒を校外の活動に参加させ、地域の教育資源を活用した教育活動に取り組むことで、生徒の社会性の向上とともに、ふるさとへの理解や愛着を深めるための教育活動を展開する。
		災害、事件、事故、感染症等に際し、他者の生命・安全を尊重しつつ、自分自身を守る能力と態度を育成する。				
3	キャリア教育の推進	学ぶことと自らの将来とのつながりを見通す。	「総合的な探究の時間」における課題探究や職業人講話等への取組を通して、生徒は自己の在り方生き方を考えながら、自ら設定した課題に主体的に取り組むことができた。また、探究型学習推進委員会を毎週開催して、キャリア教育充実のための検討と教職員の共通理解を重ねることにより、三年間を見通した指導の流れが概ね確立できた。	B	取組からは生徒・教師・保護者が三位一体となつて、生徒の将来についての目標を達成しようとする強い意志が伺えます。取組の中には効果を実感できないものもあるが、生徒が将来の進路と向き合う方向性を培う機会とするために、引き続き生徒のサポートをお願いしたい。	生徒が学校での学びと社会の接続を意識して、自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、特別活動や「総合的な探究の時間」の内容の充実にも努めた。コロナ禍の影響で「総合的な探究の時間」の授業計画に変更が生じたケースがあったことから、今後は急な変更にも対応できる柔軟な計画立案と実施に努める必要がある。
		自分の能力、資質を活かせる大学学部を研究し、一貫性のある進路計画を立案し、実践させるなど自ら進路を決定する能力と態度を育成する。				
4	重点校としての任務の遂行	県教育委員会の「施策の柱」等に応じて教育活動及び各種事業を実践する	コロナ禍による計画変更が相次いだが、日程や開催方法を変更して対応し、医学部医学科及び難関大学進学に資する学習会を企画・運営した。参加生徒には学習と動機付けの機会を、参加教員には指導力の向上と情報交換の機会を提供した。こうした取組により、地域のリーダーを輩出する本校の使命と役割を果たすことができた。	B	コロナ禍の影響を受けたと思いますが、重点校としての任務を十分果たしたと推察します。生徒と向き合う先生方の大変さはあるが、本校の役割と使命を果たすように頑張ってください。	コロナ禍により他校との連携事業で人が集まれない、県内人材が活用できないなどの問題が発生したが、県内生徒や教員の参加、県外人材による協力が多数得られたことは、重点校の事業への期待が大きいことの証左と捉えている。今後も地域全体の生徒の学力向上と教員の指導力向上に向けて、学習会の企画・運営や情報提供等の充実を図る。
		国の「普通科改革」の方向性を踏まえ、スクールミッションの再定義、スクールポリシーの策定等により、新時代に対応した高等学校教育のあり方を示す。				

(11) 総括	学校教育を取り巻く新しい動きや感染症対策に対応しながら、学校教育目標を達成するために重点目標に沿った計画的な教育活動を実施し、これまで本校が担ってきた学校としての使命と役割を果たした。しかし、その基盤となる生徒一人一人の成長にこれからも寄与していくためには、教員一人一人の指導力向上や施設設備を含む教育環境の充実、教員間の協働はもとより地域や家庭、専門機関・専門スタッフ等と連携するチーム学校の確立が不可欠である。今年度の評価結果を踏まえるとともに、地域や外部機関等との一層の連携を模索しながら、新たな視点や提言を参考にし取組に具体的な改善を加え、重点目標の達成と教育環境の一層の充実を図りたい。
---------	--